

## 平野復興大臣が本町を視察 早期復興に向けて意見交換

6月24日、本町の復興状況の確認と復興計画に関する意見交換をするため、平野達男復興大臣が来町しました。平野大臣は大沢公園と織笠小学校、役場屋上から被災地域を視察。実際に現地を見ながら水産業の復旧状況、町の復興計画の詳細、計画実施における問題点などについて町職員から説明を受けました。平野大臣は現地の状況と計画の規模を照らし合わせながら、必要な土砂の量、資材の不足や価格高騰、請負業者の不足などの問題について熱心に質問。また、現地視察の後に行われた意見交換会では町や県、復興庁との間で、早期の復興に向けた率直な意見のやりとりが行われました。



## ミニバスケットボール交流大会 千徳チームを交えて大熱戦

7月1日、山田中学校体育館でミニバスケットボール交流大会が開催されました。この日は、町内4チーム（男子1チーム、女子3チーム）と宮古市千徳のミニバスチームが交流。会場は、選手や保護者らの声援が飛び交い、熱気に満ちていました。激戦の結果、男子は千徳ミニバススポ少、女子は山田シーガルズミニバススポ少が優勝。最優秀選手には、男子が古館大祐くん（千徳ミニバススポ少）で、女子は中村百花さん（山田シーガルズミニバススポ少）が選ばれました。

## 岩手駐屯地音楽隊と山田中が共演 山田分屯基地55周年を祝う

7月14日、町中央公民館大ホールで自衛隊音楽演奏会が行われました。これは、航空自衛隊山田分屯基地が創立55周年を記念して開催するもので、陸上自衛隊岩手駐屯地音楽隊と山田中学校吹奏楽部が共演。演奏会に先駆け、山田分屯基地司令の西口雅人2等空佐が「昨年の震災時は会場に物資が山積みになっていたが、こうやって皆さんの前で演奏できるようになり、確実に復興していると感じる。創立記念と復興祈念の演奏会にしたい」とあいさつしました。演奏会では、映画「ミッションインポッシブル」のテーマや美空ひばりさんの「川の流れのように」など、多彩な曲を披露。息の合った演奏や歌、激しいドラムソロなど、詰め掛けた観客らが手拍子や歓声を上げるなど、大盛況の演奏会となりました。



岩手駐屯地音楽隊と山田中吹奏楽部の息の合った演奏（上写真）／山田分屯基地司令から岩手駐屯地音楽隊と山田中吹奏楽部に対し花束が渡される（右写真）





今月の題字

あおぞら  
白野 青空ちゃん  
(大沢小3年)

# 町のわだい

## 食育講演会が開催される 放射能の不安に活発な質問

7月13日、町中央公民館において「平成24年度山田町食育講演会」が開催されました。これは、東日本大震災に伴う東京電力福島第一原発の事故以降、放出された放射性物質による食品汚染が不安視されているためです。講演会は、岩手大学農学部<sup>いたる</sup>の佐藤 至 准教授を講師に迎え「放射線と放射能の基礎」「食品の汚染と内部被爆」などについて説明。100人あまりの参加者らは、真剣な面持ちで聞き入り、放射線についての心配事など積極的に質問していました。



## 宮古商業高校から本町に義援金 温かな支援の思いを伝える

7月5日、県立宮古商業高校から町に義援金が送られました。これは、同校の生徒らが東日本大震災復興応援商品として販売したミネラルウォーター「だれかのために」の売り上げから義援金として贈呈したものです。このミネラルウォーターは、同校と宮城県蔵王町にある飲料水メーカーと連携して生徒らが商品名とデザインを考案し、これまでに全国の高校生らの協力を得てスーパーなどで3万1千本が販売されました。同校情報科3年の高橋はるかさんから「被災した皆さんのために役立ててほしい」と義援金を手渡されると、沼崎町長は「大変温かい志。ありがたく使わせていただきます」と感謝の気持ちを述べました。

## 交通死亡事故ゼロ1,000日達成 事故のない安全・安心な町を

6月25日、役場町長室において「交通死亡事故ゼロ日継続市町村表彰式」が行われました。これは本町における交通死亡事故ゼロが、本年6月21日をもって平成21年9月26日から通算し、1,000日継続したことを表彰するものです。県交通安全対策協議会会長から沼崎町長に対し、表彰状が伝達されました。沼崎町長は「これも交通安全思想の普及や、各種団体が交通安全活動を行ってきたたまもの。今後は復興事業で車が行き交う状況になるため、油断せず引き続き事故の無い町を目指したい」とあいさつ。今後も安全・安心な町づくりのために、交通安全啓発活動を行っていきます。

